

委員会視察記録

委員会名	危機管理くらし環境委員会					
期 間	令和6年7月23日～24日					
参加者	委員長	杉本	好重	副委員長	曳田	卓
	副委員長	赤堀	慎吾	委員	宮沢	正美
	委員	藤曲	敬宏	委員	増田	享大
	委員	良知	淳行	委員	山本	彰彦
	委員	田口	章			
	委員	遠藤	行洋			
視察先	<ol style="list-style-type: none"> 大河原事業株式会社 川口処分場（島田市） 原子力防災センター（牧之原市） フジトレーニングアカデミー（牧之原市） リコー環境事業開発センター（御殿場市） クリーンセンターいず（伊豆市） 松原公園津波避難複合施設「テラッセ オレンジ トイ」（伊豆市） 					

視察の概要

7月23日（火）

■ 大河原事業株式会社 川口処分場

<概要>

大河原事業株式会社川口処分場は、同社採石場の跡地を利用した建設発生土の最終処分場であり、県内でも最大規模である。

三軸圧縮試験により盛り土や法面が崩壊しないことや現場作業において規定された締め固め強度を得られているか等を確認しながら施工管理している。



<主な質疑応答>

Q 土の種類はどこまで受け入れるのか。

A 第1種建設発生土から第3種建設発生土まで受け入れている。第4種建設発生土及び泥土でも強度が確保できる場合は受け入れている。

Q 土が第3種建設発生土以下である等の判断はどのようにしているのか。

A 文書で判断するのが前提だが、ダンプの現物を見て確認してくれというオーダーも多い。簡易試験機を利用する方法もある。

Q 静岡市内から受け入れているとのことだったが、公共工事に限った受け入れなのか、どれくらいの量を運び入れているのか。

A 土質に問題がなければ、公共工事にかかわらず受け入れをしている。現在、静岡から1日当たりダンプ4台3往復程度を受け入れており、ダンプ1台の積載量が5.5 m³であることから概ね66 m³程度の量となる。

■ 原子力防災センター

<概要>

原子力防災センターは、浜岡原子力発電所周辺の環境の安全を監視する環境放射線監視センターと原子力災害の発生時に緊急時対応の拠点となるオフサイトセンターを一体的に整備した複合施設である。

浜岡原子力発電所周辺の空間放射線量の監視、農畜産物や海産物等の放射能測定、有事の際の発電所状況や周辺地域の放射線・放射能に関する情報収集等のための機能を備えている。



<主な質疑応答>

- Q 事故が発生した場合、県民へ避難を周知する判断にかかる時間はどれぐらいか。
- A 時間をはっきりと言うことはできないが、放射線のデータは常に公開し、地域住民と情報を共有できる体制にしている。
- Q 有事の際の避難指示は誰がするのか。
- A 内閣総理大臣が都道府県知事と市町長に指示し、市町長が住民に避難指示をすることとなる。

■ F T A 訓練センター

<概要>

F T A 訓練センターは、株式会社フジアビエーションシステムズが運営する日本で唯一のレオナルド社製ヘリコプターの認定訓練センターである。

実機では困難な非常操作訓練や故障模擬、悪天候下での訓練が可能となるフライト・トレーニング・デバイス及びフル・フライト・シミュレータを活用した人材育成を行っている。



<主な質疑応答>

- Q 計器飛行の資格を取るためには、実機を用いての試験は必要ないのか。
- A 基本は実機の試験が 50 時間を要するが、弊社のシミュレータでは約 30 時間を代用できる。
- Q 現在、ドクターヘリは夜間飛行ができないということであるが、計器飛行の資格を取ればできるのか。
- A 現在、夜間飛行ができないのは計器飛行の資格の有無とはあまり関係がなく、ヘリポート側から発着許可が出ないことなどが理由である。

7月24日(水)

■ リコー環境事業開発センター

<概要>

リコー環境事業開発センターは、脱炭素社会の実現に向けた新たな環境事業の創出や環境に配慮した製品の積極的導入などを実施する施設である。

環境技術の実証実験の場、リユース・リサイクルセンター、環境活動に関する情報発信拠点と3つの機能を有しており、持続可能な社会の実現に向けた新たな取組に挑戦している。



<主な質疑応答>

Q 再生商品は新品扱いなのか、リユース品なのか。

A もともと使っていた事業所から引き上げたものを再び戻すわけではない。新品扱いだが金額は3分の2から半額程度となり多くのバックオーダーを抱えている。コピー機は機能的には成熟製品であり、リユースしやすい分野といえるが、新品の15%しか作らないよう制限をかけている。

Q 8年前も訪問させていただいたが、温度センサー等のセンシング技術の向上には大変驚いている。その背景は何か。

A 多くの失敗を積み重ねていることにある。8年前に研究中として説明したプロジェクトも大半がお蔵入りになっているが、それら形にならなかったものも含めて展示している。失敗も含めた知見を求めに年間4,000人の来館者が来てくれていることも大きい。

■ クリーンセンターいず

<概要>

クリーンセンターいずは、伊豆市及び伊豆の国市の2市で構成される伊豆市伊豆の国市廃棄物処理施設組合により発注され、令和4年12月に竣工、令和5年1月に稼働開始した一般廃棄物処理施設である。

焼却時の熱を利用した発電システムは臭気や排水を外に出さない周辺環境に配慮した構造となっている。また、プロジェクションマッピングや模型など子どもにも分かりやすい展示品を有し、教育・啓発施設としても充実している。



<主な質疑応答>

Q 高効率のごみ発電システムの導入により、発電した余剰電力を売電することだが、その収入はどこに入るのか。

A 伊豆市及び伊豆の国市で構成する廃棄物処理施設組合に入り、その後、伊豆市、伊豆の国市それぞれの収入となる。

Q 焼却灰の最終処分場はないのか。

A 現在、全て県外へ搬出している。伊豆市だけでも600tもの量があり、指定管理料とは別に搬出費がかかっている。

■ 松原公園津波避難複合施設「テラッセ オレンジ トイ」

<概要>

松原公園津波避難複合施設「テラッセ オレンジ トイ」は、観光と防災の機能を備えた全国初の施設である。

市民や観光客の交流拠点として活用することで産業振興を図るとともに、津波避難困難地域である松原公園周辺において、海水浴客、公園利用者、市民が安全に避難できる施設として整備されている。



<主な質疑応答>

Q 建設の経緯は。

A 当初は海岸線沿いに防潮堤を作る予定だったが、建設反対の声が大きく、地元住民とのワークショップを重ねる中で津波避難複合施設という形に落ち着いた。